

講義コード	515105901
講義名	子どもの保健
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤教員	藤垣 義浩	女子短期大学部
専任教員	穴戸 良子	指定なし
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部
非常勤教員	千葉 暢子	女子短期大学部
非常勤教員	大木 英彰	女子短期大学部

授業の概要

子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育と保健の関係について理解する。また、子どもの心身の健康状態を把握の方法を理解し、そのうえで疾病とその予防及び適切な対応を理解する。さらに健康の概念を理解したうえで、成長発達のプロセス、生理機能、運動機能の発達を学習する。

授業の到達目標及びテーマ

1. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
2. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。

授業計画表

回	内容
第1回	子どもの保健 活動の意義と目的（千葉暢子）
第2回	発生と胎児・乳児の発育（藤垣義浩）
第3回	母子保健（千葉暢子）
第4回	発育と発達（藤垣義浩）
第5回	虐待（大木英彰）
第6回	こころの発達（千葉暢子）
第7回	健康状態の把握とよくみられる症状（藤垣義浩）
第8回	感染症総論（藤垣義浩）
第9回	発疹性疾患（藤垣義浩）

第10回	呼吸器感染症（藤垣義浩）
第11回	生活習慣病（大木英彰）
第12回	夏風邪・消化器感染症（藤垣義浩）
第13回	感染予防（藤垣義浩）
第14回	アレルギー・救急（藤垣義浩）
第15回	保護者との情報共有と家族の支援（千葉暢子）

授業時間外の学修

1) 予習事項と、それに必要な時間（所要時間90分）
 2) 復習事項と、それに必要な時間（所要時間90分）
 毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと（所要時間90分）。また、同時に、次回の授業範囲を伝えるので、事前課題を学習すること（所要時間90分）。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行っていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	80%	
小テスト等	20%	
成果発表		
授業への貢献度		
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用		授業後レポート

教科書

『子どもの保健テキスト』 小林 美由紀、他 診断と治療社 ¥2,200

参考書

講義内容に応じて適時提示

SDGsとの関連

3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

1) 実務経験のある教員
本科目は、実務経験のある教員（医師、看護師、保健師）が担当する。

2) 科目のナンバリング
SUN2302

3) オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

4) その他の特記事項

なし

研究室（訪問先等）

非常勤講師室（前期、木曜日）

電話番号

028-667-7111（代）